「もりのこびとたち」

もりのくらしは　たのしくて　ゆたかです
きのみや　くさのみ　きのこも　たっぷりあるし
おとうさんは　おおしくて、おかあさんは　やさしく
ゆかいな　ともだちも　たくさんいます

Elsa Beskow

夢見る力が育つとき

～エルサ・ベスコフの世界～

エルサ・ベスコフは、「ニルスのふしぎな旅」のセルマ・ラーゲルレーヴ、「長くつ下のピッピ」のアストリッド・リンドグレーンと並んで巨匠と称される、スウェーデンを代表する作家です。明るく、柔らかく、忠実に…ベスコフの描く子どもの可愛らしさ、自然の圧倒的な美しさは、読者を魅了して止みません。

1910年に出版された「もりのこびとたち」は深い森の奥に住む、小人の家族の物語。左ページがモノトーン、右ページがカラーという構成も印象的です。リスとかくれんぼをしたり、カエルと跳びくらべをしたり…けれど、怖いものもたくさんあります。子どもを脅かすトロルや、わるいヘビ。お父さんは松かさの鎧を着てヘビと闘います。月夜に姿を現す美しい妖精、楽しい冬支度…森の四季のうつり変わりをいきいきと描いたこの作品は、スウェーデンで何世代にもわたって愛され続けているベスコフの代表作の一つです。

スウェーデンの森に足を踏み入れると、そこはそのまま「もりのこびとたち」の世界です。美しい針葉樹、岩を覆う水苔、豊かに実るブルーベリー…そして小人の子どもたちの帽子、「ベニテングタケ」も、あちらこちらに見つかります。トロルが顔をのぞかせ、岩かげでは妖精が踊っているに違いない…ベスコフの描いた森は、スウェーデンの子どもたちにとって、身近でかけがえのない「ぼくの森、わたしの森」そのものでした。

物語は「このさきは…みなさんがじぶんでかんがえてごらんなさい　そしたら、おしまいのないおはなしができますよ！」と締めくくられます。毎日のように森に出掛けるスウェーデンの子どもたちが、ファンタジーの続きを自分自身で描き、生きたことは、想像に難くありません。自然を愛し、ともに生き、畏れる――スウェーデンの人々の心の奥には、子どもの頃に出合うこの一冊が、静かに輝いているのです。

※文献：エルサ・ベスコフ作 絵／大塚勇三訳『もりのこびとたち』（福音館書店刊）

エルサ・ベスコフ

1874年ストックホルム生まれ。小学校の絵画教師を務めた後、絵本や児童書の挿絵を描く。1952年、子どもの本に対するスウェーデンの最高賞、ニルス・ホルゲション賞を受賞。1958年には彼女の業績を讃え、スウェーデン図書館協会にてエルサ・ベスコフ賞が創立された。

監修：齋藤惇夫

作家・児童文学者。福音館書店の専務取締役（編集責任者）として子どもの本の編集に携わり、2000年に退社、創作活動に専念。著書に『グリックの冒険』（岩波書店・日本児童文学者協会新人賞受賞）、『冒険者たち』（岩波書店・国際アンデルセン賞優良作品賞受賞）、『ガンバとカワウソの冒険』（岩波書店・野間児童文芸賞、国際アンデルセン賞優良作品賞受賞）、『哲夫の春休み』（岩波書店）などがある。

PRESENT

今回ご紹介したベスコフの絵本を3名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のコミュニケーションカードまたは郵便はがきに、賞品名・住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレスを明記の上、ご応募ください（5月20日消印有効）。郵便はがきでご応募の場合は P.26の「お便り募集」の宛先までお願いいたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。